

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K06914

研究課題名(和文)腎細胞癌新規組織型の臨床病理学的・分子生物学的研究

研究課題名(英文)Clinicopathological and molecular biological study of renal cell carcinoma of novel and rare histologica types

研究代表者

長嶋 洋治 (Nagashima, Yoji)

東京女子医科大学・医学部・教授

研究者番号：10217995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：腎癌の分類は分子生物学的知見をもとに大きく変わり、多くの新規組織型が加わった。本研究では新規組織型の臨床病理学的特徴の解明を目指した。検討対象としては自施設の切除例に加え、コンサルテーション症例を含めた。以下の知見が得られた。TFE3再構成型腎細胞癌は中年や透析例にも見られ、形態学的に多彩であった。フマル酸ヒドラターゼ欠損性腎細胞癌は通常の乳頭状腎細胞癌と形態学的な重なりがあるが、予後が明らかに不良であり、正確な診断が求められる。後天性嚢胞腎随伴性腎細胞癌では乳頭状腎細胞癌に類似したメチル化プロファイルが見られる。これらを通じて免疫染色を主とした病理診断アルゴリズムを確立した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2023年に出版されたWHO腎細胞癌分類では新規組織型、特に分子生物学的に定義される組織型が導入され、本邦で用いられている腎癌取り扱い規約(第5版、2020年出版)との間にギャップが生じている。本研究では新たに導入された新規組織型の性質を明らかにすることができた。また、分子生物学的手法の使用に制約のある施設であっても、ルーチン化されている免疫染色を用いて、正確な診断が可能となるアルゴリズムを確立することができた。これらを通じて腎細胞癌の稀少組織型を集積し、大規模な臨床病理学的検討への進展が期待される。

研究成果の概要(英文)：Pathological classification of renal cell carcinoma (RCC) contains various histological and genetic types. This research aimed to reveal clinicopathological features. The cases examined were RCCs surgically resected at the Tokyo Women's Medical University Hospital and subjected for pathological consultation to the PI. We revealed the facts as follows; TFE3-rearranged RCC occurs not only in younger population but also in elder population and in patients receiving long-term diysis, Although fumarate hydratase-deficient RCC presents morphological overlapping with papillary RCC, precise differential diagnosis is required, considering unfavorable prognoses and possibility of a hereditary background. Acquired cystic disease-associated RCC possesses similar methylation profile with papillary RCC. Additionally, algorithm for histopathological diagnosis of RCCs mainly based on immunohistochemistry.

研究分野：人体病理学

キーワード：Renal cell carcinoma Pathology TFE3-rearranged RCC FH-deficient RCC ACD-associated RCC Immunohistochemistry Break apart FISH Diagnostic algorithm

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

腎細胞癌(以下、腎癌)の頻度は必ずしも高くないが、家族性腫瘍症候群に合併する例がある。von Hippel-Lindau(VHL)病における淡明細胞型腎癌、c-met 機能獲得型変異を伴う家族性乳頭状腎癌、Birt-Hogg-Dubé (BHD)症候群における嫌色素性腎癌が代表例である。最近では、胚細胞レベルでのコハク酸脱水素酵素遺伝子(succinate dehydrogenase, SDH)異常やフマル酸ヒドラターゼ(fumarate hydratase, FH)遺伝子異常による家族性腎癌症候群が認識されている。これらの症候群の責任遺伝子の解析から腎癌各組織型の発生機構が解明されてきた。国際保健機構(World Health Organization, 以下 WHO)ではこうした知見をもとに組織型分類を出版、腫瘍病理診断のゴールドスタンダードとしてきた。最新の分類は 2022 年に出版されたが¹⁾、TFE3 再構成型腎細胞癌、TFEB 変異型腎細胞癌、長期透析に伴って発生する後天性嚢胞腎(acquired cystic disease, ACD)随伴腎癌、SDH 欠損腎癌、FH 欠損性腎癌などが加わった。本邦で汎用されている腎癌取り扱い規約(第 5 版, 2020 年出版)²⁾の分類は 2016 年の WHO に準拠したものである。本研究申請当時改定作業中であって、2022 年に出版された新 WHO 分類(以下、新 WHO 分類)とのギャップから、国際的な治療成績比較や学術的発信にあたっての混乱が生じている。したがって、腎癌新規組織型を多数例を検討し、本邦での臨床病理学的性質や組織型特異的なバイオマーカー、治療標的を明らかにする必要がある。本研究では、東京女子医科大学病院で切除された腎癌症例および研究代表者に寄せられたコンサルテーション症例を新 WHO 分類に基づいて見直し、臨床病理学的性格を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究では、東京女子医科大学病院(以下、本学病院)で切除された腎癌症例および研究代表者に寄せられたコンサルテーション症例を新 WHO 分類に基づいて見直し、臨床病理学的性格を明らかにする。

(1)本学病院で外科的に切除された腎細胞癌症例中で、TFE3 再構成型腎細胞癌、TFEB 変異型腎細胞癌、フマル酸ヒドラターゼ[fumarate hydratase(以下 FH)] 欠損性腎細胞癌、コハク酸脱水素酵素[succinate dehydrogenase (以下 SDH)]欠損性腎細胞癌、後天性嚢胞腎[Acquired cystic disease (以下、ACD)]随伴性腎細胞癌の症例を蓄積し臨床病理学的検討を行う。

(2)代表研究者のもとには年間 100 例あまりのコンサルテーションが寄せられるが、これらの中から上記当該用例があれば、依頼元主動で症例報告を行い、データを蓄積する。

(3)上記を通じて腎細胞癌の病理診断アルゴリズムを確立し、免疫染色を主として多岐な組織型にわたる診断に対応を可能にする。

3. 研究の方法

(1)稀少例の臨床病理学的研究

TFE3 再構成型腎細胞癌の臨床病理学的研究：

i. 病理診断による症例の抽出：本学病院で外科的に切除された腎細胞癌の検体のうち、淡明細胞質を有する腫瘍細胞が乳頭状、巣状構築を形成するなどの同組織型を示唆する症例に対し、-methyl acyl CoA racemase (AMACR), TFE3, cathepsin K といった陽性マーカー、CK(AE1/AE3), carbonic anhydrase 9 (CA9)などの陰性マーカーの免疫染色を行う。

ii.TFE3 が癌細胞核に陽性を示した症例について、可能な限り、TFE3 遺伝子の break apart FISH を行い、解離シグナルが得られた症例を TFE3 再構成性腎細胞癌として蓄積、臨床病理学的特徴を検討した。

FH 欠損性腎細胞癌の臨床病理学的研究：

i. 病理診断による症例の抽出：本学病院で外科的に切除された腎細胞癌の検体のうち、高度異型性腫瘍細胞が乳頭状、篩状、嚢胞状構築を形成するなどの同組織型を示唆する症例に対し、-methyl acyl CoA racemase (AMACR), fumarate hydratase (FH), 2-succinylated cysteine (2SC)の免疫染色を行い、症例を抽出した。

ii.AMACR, 2SC 陽性/FH 陰性症例を FH 欠損性腎細胞癌として蓄積、臨床病理学的特徴を検討した。

4. 研究成果

(1)稀少例の臨床病理学的研究

TFE3 再構成型腎細胞癌の臨床病理学的研究：

2013 年 4 月から 2018 年 3 月の期間に当院にて手術施行し、FISH 法にて Xp11.2 転座型腎細胞癌の診断となった 15 例を対象とした。【結果】対象の年齢中央値は 42 歳 (range: 18-73

歳) 性別は男性が4名(44%)、女性が5名(56%)であった。原発巣腫瘍径は中央値42mm (range: 15-120mm) Fuhrman gradeはGrade 1-2が2例(13%)、Grade 3-4が12例(80%)、不明が1例(7%)であった。病期はStage 1-2が9例(60%)、stage 3-4が6例(40%)であった。stage 1の症例に対しては全例、部分的腎切除が行われ、再発はなかった。根治的手術を施行後の予後は比較的良好であった。

fumarate hydratase 欠損性腎細胞癌(FHdRCC)の臨床病理学的検討

【はじめに】FHdRCCはFH遺伝子変異によって生じる稀な腎細胞癌の1組織型である。我々は本学病院症例ファイルから3例の症例を抽出し検討を行った。【症例】症例1:46歳、女性。他院で筋腫核出術施行。腎腫瘍のため腎部分切除術施行。症例2:45歳、女性。腎腫瘍と子宮筋腫のため、腎部分切除と子宮全摘術を施行された。症例3:35歳、男性。姉が腎腫瘍で死亡。腎嚢胞性腫瘍のため腎部分切を施行された。4年後、下大静脈周囲に再発し、腫瘍摘除された。【病理所見】症例1と2は乳頭管状構造からなる上皮性腫瘍、症例3は嚢胞壁に結節が乳頭状腫瘍を示した。再発病変は乳頭状構築を示した。いずれの症例でも、大型核小体が散見された。第2例の子宮筋腫は通常症例に比して特記すべき組織所見はなかった。いずれの腎細胞癌および第2例の子宮筋腫はFH(-)、S-(2-succinylated)-cysteine (+)であった。以上からFHdRCCと診断した。【考察】3症例とも家族歴、既往歴からFH胚細胞性変異による遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌症候群が疑われた。慎重なフォロー、必要に応じて家族の精査、遺伝子検査が望まれる。【展望】その後、合計10例のFHdRCC症例が見出され、遺伝子検査も含めた検討を計画中である。

透析関連腎細胞癌の臨床病理学的検討^{3,4)}

【背景】透析関連腎細胞癌に対し、腹腔鏡下手術の普及や全身療法が主流となって以来の治療アウトカムに関わる報告は少ない。【症例と方法】2000年から2020年の間に当院で原発巣切除術を施行した透析関連腎細胞癌と散発性腎細胞癌の治療アウトカムを検討した。腫瘍学的アウトカムは術後の全生存および癌特異的生存率を、手術関連アウトカムは出血量や合併症頻度などを評価した。【結果】2988名が対象であり透析関連腎細胞癌患者は305名(10%)であった。推定5年全生存率および癌特異的生存率は透析関連腎細胞癌患者群で優位に不良であった(全生存率82.2% vs 91.9%, p<0.0001; 癌特異的死亡率93.7% vs 89.8%, p=0.0048)。多変量解析では、透析の有無は独立した予後因子であった(全生存率HR 2.86, p<0.0001; 癌特異的死亡率HR 1.95, p=0.0119)。手術関連アウトカムについて腹腔鏡下腎全摘術(透析246名, 散発例196名)および開腹腎全摘術(透析55名, 散発例317名)において透析群で出血量、手術時間、手術後入院日数は有意に少なかった(p=0.05)。しかし、散発例には進行症例が多く含まれているため、手術の侵襲性が高かった可能性があり、その影響を受けていると考えられる。【結論】最近の透析関連腎細胞癌患者の生存率は散発例に比し不良であった。手術関連アウトカムについては、少なくとも透析関連例は散発例に比して不良ではなく、リスクは同様であった。【展望】透析腎組織内の背景に見られる異型嚢胞などの前駆病変も含めて、分子生物学的解析を進め、発症機構を明らかにする。

(2)コンサルテーション例をもとにした症例報告⁵⁻⁹⁾

代表研究者には研究期間中腎腫瘍291例のコンサルテーションが送付された。これらを主に免疫組織化学的手法、転座型腎細胞癌については細胞遺伝学的手法で解析し、適切な診断を回答した。使用した抗体、プローブ類には本研究費をあてた。依頼元施設主導での症例報告論文を掲載することができた。

(3)腎腫瘍診断のためのアルゴリズム確立 (図1)

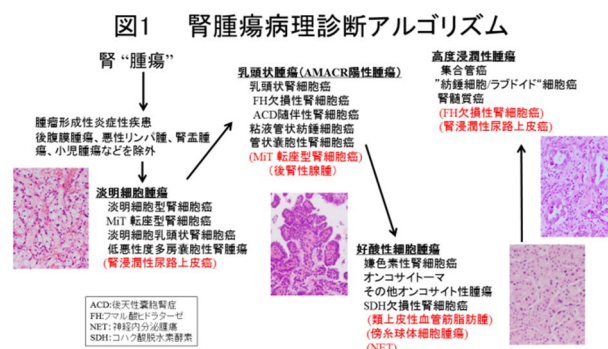
代表研究者は日常診断とコンサルテーションの経験を通じ、腎腫瘍の診断アルゴリズムを以下のように確立した。すなわち、以下の5段階を踏んで組織型を鑑別する。

腫瘍形成性炎症、後腹膜腫瘍、腎盂腫瘍、小児腫瘍、血管筋脂肪腫/類上皮性血管筋脂肪腫、傍糸球体細胞腫を鑑別する。

淡明腫瘍細胞からなる組織型を鑑別する。:淡明細胞型腎細胞癌、低悪性度多房嚢胞性腎腫瘍、淡明細胞乳頭状腎腫瘍、TFE3再構成型腎細胞癌、TFEB変異型腎細胞癌など。

乳頭状構築を形成するあるいはAMCR陽性を示す腫瘍を鑑別する。:乳頭状腎細胞癌、FH欠損性腎細胞癌、粘液管状紡錘細胞癌、管状嚢胞性腎細胞癌、後天性嚢胞腎随伴性腎細胞癌。TFE3転座型腎細胞癌に関して再度検討を行う。

好酸性細胞からなる腫瘍を鑑別する。:嫌色素性腎細胞癌、オンコサイトーマ、他オンコサイト性腫瘍、コハク酸脱水素酵素欠損性腎細胞癌。



高度浸潤性腫瘍を鑑別する。：紡錘性細胞またはラブドイド変化を示す腎細胞癌、集合管癌、SMARCB1 欠損性腎髓質癌。腎浸潤性腎盂尿路上皮癌の可能性を再び検討する。
以上については第 67 回日本病理学会秋期特別総会(岡山, 2021 年 11 月 5 日)において病理診断特別講演「腎腫瘍の病理－腎細胞癌(RCC) 4 組織型を主軸とした診断アルゴリズムと、新規・希少腎腫瘍の診断クルー－」として発表、病理診断学賞を受賞した。現在英文総説論文を執筆中である。

<参考文献>

- 1) WHO Classification of Tumours Editorial Board. Urinary and male genital tumours [Internet]. Lyon (France): International Agency for Research on Cancer; 2022 (WHO classification of tumours series, 5th ed.; vol. 8). Available from: <https://tumourclassification.iarc.who.int/chapters/36>.
- 2) 日本泌尿器科学会、日本病理学会、日本放射線学会(編) 腎癌取扱い規約(第 5 版)、メジカルレビュー社(東京), 2020.
- 3) Ishihara H, Ikeda T, Fukuda H, Yoshida K, Kobayashi H, Iizuka J, Nagashima Y, Kondo T, Takagi T. Renal cell carcinoma outcomes in end-stage renal disease: A 40-year study from two Japanese institutions. *Int J Urol* 2024;31(1):73-81..
- 4) Ishihara H, Fukuda H, Tachibana H, Yoshida K, Kobayashi H, Takagi T, Iizuka J, Ishida H, Nagashima Y, Kondo T, Tanabe K. Outcome of advanced renal cell carcinoma arising in end-stage renal disease: comparison with sporadic renal cell carcinoma. *Clin Exp Nephrol*. 2021 Jun;25(6):674-682.
- 5) Ono A, Nakamura M, Miura S, Tsuru I, Izumi T, Kusakabe M, Mitarai S, Nagashima Y, Kume H, Morikawa T, Shiga Y: Bilateral fumarate hydratase deficient renal cell carcinoma in a patient with hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer syndrome. *Int J Urol Case Rep* 2024 Jan 2;7(2):144-147.
- 6) Fujisawa S, Furukawa J, Hara T, Okada K, Chiba K, Nakano Y, Hyodo T, Nagashima Y, Fujisawa M. Renal cell carcinoma in the contralateral kidney with TFE3 gene translocation following chemotherapy for childhood nephroblastoma: A case report and literature review. *Clin Case Rep* 2023;11(11):e8128.
- 7) Kuroda N, Sugawara E, Ohe C, Kojima F, Ohashi R, Mikami S, Nagashima Y, Peckova K, Michal M, Hes O. Review of TFEB-amplified renal cell carcinoma with focus on clinical and pathobiological aspects. *Pol J Pathol* 2021;72(3):197-199.
- 8) Nishizawa H, Baba M, Furuya M, Kato I, Kurahashi R, Honda Y, Mikami Y, Nagashima Y, Eto M, Kamba T. t(6; 11) renal cell carcinoma. A case report successfully diagnosed by using fluorescence in situ hybridization. *IJU Case Rep* 2021;4(6):375-378.
- 9) Fuchizawa H, Kijima T, Takada-Owada A, Nagashima Y, Okazaki A, Yokoyama M, Nishihara D, Ishida K, Kamai T. Metastatic mucinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney responding to nivolumab plus ipilimumab. *IJU Case Rep* 2021;4(5):333-337.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 42件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 36件）

1. 著者名 Kobari Yuki, Iizuka Junpei, Hata Keisuke, Kato Shinya, Minoda Ryo, Yoshida Kazuhiko, Ishida Hideki, Nagashima Yoji, Tanabe Kazunari, Takagi Toshio	4. 巻 54
2. 論文標題 Effectiveness of Retzius-Sparing Robot-Assisted Radical Prostatectomy in a Renal Transplant Recipient: a Case Report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Transplantation Proceedings	6. 最初と最後の頁 525 ~ 527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.transproceed.2021.08.063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 OZAKI AYAKA, MOTOMURA HITOMI, TAMORI SHOMA, ONAGA CHOTARO, NAGASHIMA YUKA, KOTORI MAHO, MATSUDA CHIKA, MATSUDA AKARI, MOCHIZUKI NANAKO, SATO TSUGUMICHI, HARA YASUSHI, SATO KEIKO, MIYAGI YOHEI, NAGASHIMA YOJI, HANAWA TAKEHISA, HARADA YOHISUKE, XIONG YUYUN, SASAKI KAZUNORI, OHNO SHIGEO, AKIMOTO KAZUNORI	4. 巻 42
2. 論文標題 High Expression of p62 and ALDH1A3 Is Associated With Poor Prognosis in Luminal B Breast Cancer	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Anticancer Research	6. 最初と最後の頁 3299 ~ 3312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/anticancer.15818	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Pan Chin-Chen, Tseng Chih-En, Kuroda Naoto, Yano Mitsutake, Yasuda Masanori, Nagashima Yoji, Yeh Yi-Chen, Wang Yu-Chao, Chang Yen-Hwa, Epstein Jonathan I.	4. 巻 30
2. 論文標題 Molecular Characterization of Metanephric Adenoma, Epithelial Wilms Tumor, and Overlap Lesions: An Integrated Whole-exome and Transcriptome Sequencing Analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Applied Immunohistochemistry & Molecular Morphology	6. 最初と最後の頁 257 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAI.0000000000000996	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Shimizu Ayako, Nonami Yuji, Kanamuro Toshiko, Masui Kenta, Yamamoto Tomoko, Amano Kosaku, Kawamata Takakazu, Ichihara Atsuhiko, Nagashima Yoji	4. 巻 51
2. 論文標題 Pituicytoma with pleomorphism: A case report with cytological findings	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Diagnostic Cytopathology	6. 最初と最後の頁 E1-E5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dc.25045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawada Anri, Kawanishi Kunio, Igarashi Yuto, Taneda Sekiko, Hattori Motoshi, Ishida Hideki, Tanabe Kazunari, Koike Junki, Honda Kazuho, Nagashima Yoji, Nitta Kosaku	4. 巻 8
2. 論文標題 Overexpression of Plasmalemmal Vesicle-Associated Protein-1 Reflects Glomerular Endothelial Injury in Cases of Proliferative Glomerulonephritis with Monoclonal IgG Deposits	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Kidney International Reports	6. 最初と最後の頁 151 ~ 163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ekir.2022.10.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YOSHIDA KAZUHIKO, HATA KEISUKE, IIZUKA JUNPEI, KONDO TSUNENORI, ISHIHARA HIROKI, ISHIDA HIDEKI, NAGASHIMA YOJI, TANABE KAZUNARI, TAKAGI TOSHIO	4. 巻 36
2. 論文標題 Immune Checkpoint Inhibitor Combination Therapy for Renal Cell Carcinomas With Concomitant Inferior Vena Cava Thrombi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 1030 ~ 1034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.12798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama Takashi, Toguchi Makoto, Iizuka Junpei, Horita Shigeru, Ishizuka Tsutomu, Chu-Su Yu, Nagashima Yoji, Takagi Toshio, Tanabe Kazunari, Tokuoka Yoshikazu	4. 巻 40
2. 論文標題 5-Aminolevulinic acid-based photodynamic diagnosis for detection of urothelial carcinoma cells in bladder washing sediment suspension: A pilot study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Photodiagnosis and Photodynamic Therapy	6. 最初と最後の頁 103072 ~ 103072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pdpdt.2022.103072	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡崎ななせ, 清水亜衣, 桑原 健; 高桑恵美, 岡田宏美, 安部崇重, 三橋智子, 篠原信雄; 長嶋洋治, 松野吉宏	4. 巻 39
2. 論文標題 針生検で診断に難渋したFumarate hydratase欠損性腎細胞癌の一例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 340-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長嶋洋治、池口歩美、稲垣茉莉子、高木敏男	4. 巻 70
2. 論文標題 腎細胞癌の病理診断	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本臨床検査医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 537-542
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石原弘喜、長嶋洋治、近藤恒徳、高木敏男	4. 巻 29
2. 論文標題 透析腎癌の遺伝子解析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Urology Today	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAGAHISA CHIKA, IIZUKA JUNPEI, KOBARI YUKI, MINODA RYO, FUKUDA HIRONORI, YOSHIDA KAZUHIKO, OKUDA HISASHI, ISHIDA HIDEKI, NAGASHIMA YOJI, TAKAGI TOSHIO	4. 巻 37
2. 論文標題 Efficacy of Combined Pembrolizumab and Pelvic Radiotherapy for Bladder Cancer With Rectal Metastases	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 912 ~ 915
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.13162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢代麻友佳、関敦子、高木敏男、鬼塚裕美、増井憲太、山本智子、長嶋洋治	4. 巻 40
2. 論文標題 ロボット支援腎部分切除術を施行された腎類上皮性血管筋脂肪腫の3例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋瑠子、大江, 知里、橋立英樹、大月寛郎、山田鉄也、宮崎龍彦、都築豊徳、長嶋洋治	4. 巻 40
2. 論文標題 Oncocytic and chromophobe renal tumor の鑑別診断	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 18-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akaba Tomohiro, Shiota Yuno, Onizawa Fumi, Isaka Tamami, Nagashima Yoji, Tagaya Etsuko	4. 巻 9
2. 論文標題 Recurrent spindle cell carcinoma of the lung successfully treated by chemoimmunotherapy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Respirology Case Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rcr2.757	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akashi Keiko, Nagashima Yoji, Tabata Tsutomu, Oda Hideaki	4. 巻 15
2. 論文標題 Immunochemical analysis of iron transporters and M2 macrophages in ovarian endometrioma and clear cell adenocarcinoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular and Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/mco.2021.2321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akizawa Yoshika, Kanno Toshiyuki, Horibe Yu, Shimizu Yumi, Noguchi Eiichiro, Yamamoto Tomoko, Okamoto Takahiro, Nagashima Yoji, Tabata Tsutomu	4. 巻 15
2. 論文標題 Ovarian metastasis from breast cancer mimicking a primary ovarian neoplasm: A case report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecular and Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/mco.2021.2297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fuchizawa Hirotaka, Kijima Toshiki, Takada Owada Atsuko, Nagashima Yoji, Okazaki Akihito, Yokoyama Megumi, Nishihara Daisaku, Ishida Kazuyuki, Kamai Takao	4. 巻 4
2. 論文標題 Metastatic mucinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney responding to nivolumab plus ipilimumab	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IJU Case Reports	6. 最初と最後の頁 333 ~ 337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/iju5.12342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Honda Yasushi, Ozaki Anna, Iwaki Michihiro, Kobayashi Takashi, Nogami Asako, Kessoku Takaomi, Ogawa Yuji, Tomeno Wataru, Imajo Kento, Yoneda Masato, Saito Satoru, Nagashima Yoji, Nakajima Atsushi	4. 巻 147
2. 論文標題 Protective effect of SGL5213, a potent intestinal sodium-glucose cotransporter 1 inhibitor, in nonalcoholic fatty liver disease in mice	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Pharmacological Sciences	6. 最初と最後の頁 176 ~ 183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jphs.2021.07.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayama Emiko, Furutani Yoshiyuki, Kawaguchi Nanako, Seki Akiko, Nagashima Yoji, Okita Keisuke, Takeuchi Daiji, Matsuoka Rumiko, Inai Kei, Hagiwara Nobuhisa, Nakanishi Toshio	4. 巻 10
2. 論文標題 Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Cardiomyocytes with SCN5A R1623Q Mutation Associated with Severe Long QT Syndrome in Fetuses and Neonates Recapitulates Pathophysiological Phenotypes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biology	6. 最初と最後の頁 1062 ~ 1062
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biology10101062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishihara Hiroki, Fukuda Hironori, Tachibana Hidekazu, Yoshida Kazuhiko, Kobayashi Hirohito, Takagi Toshio, Iizuka Junpei, Ishida Hideki, Nagashima Yoji, Kondo Tsunenori, Tanabe Kazunari	4. 巻 25
2. 論文標題 Outcome of advanced renal cell carcinoma arising in end-stage renal disease: comparison with sporadic renal cell carcinoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 674 ~ 682
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-021-02038-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koen Akihiro, Maeda Hideyuki, Nagashima Yoji, Kanzaki Masato	4. 巻 7
2. 論文標題 Surgical resection of a rapidly growing pulmonary spindle cell carcinoma by robot-assisted thoracoscopic surgery: a case report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgical Case Reports	6. 最初と最後の頁 222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40792-021-01305-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Yukiko, Toda Kunio, Toi Sono, Yano Tetsundo, Iijima Mutsumi, Shimizu Yuko, Nagashima Yoji, Itakura Yasutomo, Iguchi Shigekazu, Kikuchi Ken, Shibuya Kazutoshi, Nonaka Manabu, Kitagawa Kazuo	4. 巻 60
2. 論文標題 Diagnostic Utility of Polymerase Chain Reaction for Paraffin-embedded Sinus Specimens for Rhinocerebral Mucormycosis Complicated by Internal Carotid Artery Thrombosis and Cerebral Infarction	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 2683 ~ 2686
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.6809-20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Misumi Yoshitsugu, Ichihara Shin, Nonaka Kouichi, Onizuka Hiromi, Nagashima Yoji	4. 巻 2021
2. 論文標題 Gastric Signet-Ring Cell Carcinoma That Presented as an Elevated Lesion due to Fibromuscular Obliteration in the Lamina Propria	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Case Reports in Gastrointestinal Medicine	6. 最初と最後の頁 1 ~ 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2021/2887256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motomura Hitomi, Ozaki Ayaka, Tamori Shoma, Onaga Chotaro, Nozaki Yuka, Waki Yuko, Takasawa Ryoko, Yoshizawa Kazumi, Mano Yasunari, Sato Tsugumichi, Sasaki Kazunori, Ishiguro Hitoshi, Miyagi Yohei, Nagashima Yoji, Yamamoto Kouji, Sato Keiko, Hanawa Takehisa, Tanuma Sei-Ichi, Ohno Shigeo, Akimoto Kazunori	4. 巻 22
2. 論文標題 Glyoxalase 1 and protein kinase C as potential therapeutic targets for late stage breast cancer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Oncology Letters	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/ol.2021.12808	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishizawa Hidekazu, Baba Masaya, Furuya Mitsuko, Kato Ikuma, Kurahashi Ryoma, Honda Yumi, Mikami Yoshiki, Nagashima Yoji, Eto Masatoshi, Kamba Tomomi	4. 巻 4
2. 論文標題 t(6; 11) renal cell carcinoma. A case report successfully diagnosed by using fluorescence in situ hybridization	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IJU Case Reports	6. 最初と最後の頁 375 ~ 378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/iju5.12353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Pan Chin-Chen, Tseng Chih-En, Kuroda Naoto, Yano Mitsutake, Yasuda Masanori, Nagashima Yoji, Yeh Yi-Chen, Wang Yu-Chao, Chang Yen-Hwa, Epstein Jonathan I.	4. 巻 30
2. 論文標題 Molecular Characterization of Metanephric Adenoma, Epithelial Wilms Tumor, and Overlap Lesions: An Integrated Whole-exome and Transcriptome Sequencing Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Applied Immunohistochemistry & Molecular Morphology	6. 最初と最後の頁 257 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAI.0000000000000996	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sawada Anri, Okumi Masayoshi, Horita Shigeru, Tamura Tomomi, Taneda Sekiko, Ishida Hideki, Hattori Motoshi, Tanabe Kazunari, Nitta Kosaku, Honda Kazuho, Koike Junki, Nagashima Yoji, Shimizu Akira	4. 巻 71
2. 論文標題 Monoclonal and polyclonal immunoglobulin G deposits on tubular basement membranes of native and pretransplant kidneys: A retrospective study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 406 ~ 414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.13092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Daiji, Uto Kenta, Inai Kei, Nagashima Yoji, Shinkawa Takeshi	4. 巻 79
2. 論文標題 Prominent atrial fibrosis and its correlation with atrial tachyarrhythmia and dilated atrium long after classic Fontan surgery	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cardiology	6. 最初と最後の頁 671 ~ 677
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjcc.2021.12.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toguchi Makoto, Takagi Toshio, Ogawa Yuko, Morita Satoru, Yoshida Kazuhiko, Kondo Tsunenori, Iizuka Junpei, Ishida Hideki, Nagashima Yoji, Tanabe Kazunari	4. 巻 11
2. 論文標題 Detection of a peritumoral pseudocapsule in patients with renal cell carcinoma undergoing robot-assisted partial nephrectomy using enhanced MDCT	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-81922-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yagawa Yohsuke, Narumiya Kosuke, Kudo Kenji, Maeda Shinsuke, Toyoshima Yukinori, Ogawa Kyohei, Tanigawa Keishi, Hashimoto Yaichiro, Nagashima Yoji, Osugi Harushi, Egawa Hiroto	4. 巻 15
2. 論文標題 Cardiac metastasis after esophagogastrectomy for esophageal adenocarcinoma with an antemortem diagnosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical Journal of Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 77 ~ 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12328-021-01557-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda Naoto, Sugawara Emiko, Ohe Chisato, Kojima Fumiyoshi, Ohashi Riuko, Mikami Shuji, Nagashima Yoji, Peckova Kvetoslava, Michal Michal, Hes Ondrej	4. 巻 72
2. 論文標題 Review of TFEB-amplified renal cell carcinoma with focus on clinical and pathobiological aspects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Polish Journal of Pathology	6. 最初と最後の頁 197 ~ 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5114/pjp.2021.111769	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobari Yuki, Iizuka Junpei, Hata Keisuke, Kato Shinya, Minoda Ryo, Yoshida Kazuhiko, Ishida Hideki, Nagashima Yoji, Tanabe Kazunari, Takagi Toshio	4. 巻 54
2. 論文標題 Effectiveness of Retzius-Sparing Robot-Assisted Radical Prostatectomy in a Renal Transplant Recipient: a Case Report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Transplantation Proceedings	6. 最初と最後の頁 525 ~ 527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.transproceed.2021.08.063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kondo Hiroka, Ohki Takeshi, Ogawa Shimpei, Omori Teppei, Onizuka Hiromi, Nagashima Yoji, Yamaguchi Shigeki	4. 巻 8
2. 論文標題 Multiple intestinal lymphangiomas with episodic hemorrhage requiring partial laparoscopic resection: a case report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Surgical Case Reports	6. 最初と最後の頁 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40792-022-01411-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YOSHIDA KAZUHIKO, HATA KEISUKE, IIZUKA JUNPEI, KONDO TSUNENORI, ISHIHARA HIROKI, ISHIDA HIDEKI, NAGASHIMA YOJI, TANABE KAZUNARI, TAKAGI TOSHIO	4. 巻 36
2. 論文標題 Immune Checkpoint Inhibitor Combination Therapy for Renal Cell Carcinomas With Concomitant Inferior Vena Cava Thrombi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 1030 ~ 1034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.12798	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishihara Hiroki, Ikeda Takashi, Fukuda Hironori, Yoshida Kazuhiko, Kobayashi Hirohito, Iizuka Junpei, Nagashima Yoji, Kondo Tsunenori, Takagi Toshio	4. 巻 31
2. 論文標題 Renal cell carcinoma outcomes in end stage renal disease: A 40 year study from two Japanese institutions	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Urology	6. 最初と最後の頁 73 ~ 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iju.15314	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kojima Fumiyoshi, Musangile Fidele Y., Matsuzaki Ibu, Yorita Kenji, Kuroda Naoto, Nagashima Yoji, Murata Shin-ichi	4. 巻 11
2. 論文標題 Current Knowledge and Prospects for Renal Hemangioblastoma and Renal Cell Carcinoma with Hemangioblastoma-like Features	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Biomedicines	6. 最初と最後の頁 1467 ~ 1467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/biomedicines11051467	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ono Akihiro, Nakamura Masaki, Takada Takuya, Miura Sakiko, Tsuru Ibuki, Izumi Taro, Kusakabe Masashi, Mitarai Sachiko, Nagashima Yoji, Kume Haruki, Morikawa Teppei, Shiga Yoshiyuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Bilateral fumarate hydratase deficient renal cell carcinoma in a patient with hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer syndrome	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 IJU Case Reports	6. 最初と最後の頁 144 ~ 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/iju5.12688	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Osawa Takahiro, Fujii Yasuhisa, Kimura Go, Kitamura Hiroshi, Nagashima Yoji, Iizumi Sakura, Osaka Tsuyoshi, Tsubouchi Ryoichi, Shinohara Nobuo	4. 巻 13
2. 論文標題 Electronic patient-reported outcome (e-PRO) monitoring for adverse event management during cabozantinib treatment in patients with advanced renal cell carcinoma: protocol for a three-arm, randomised, multicentre phase II trial (e-PRO vs paper-PRO or usual care)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e070275 ~ e070275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2022-070275	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saito Satomi, Omori Teppei, Murasugi Shun, Yonezawa Maria, Takayama Yukiko, Ohki Takeshi, Onizuka Hiromi, Nagashima Yoji, Tokushige Katsutoshi	4. 巻 17
2. 論文標題 Multiple Small Bowel Gastrointestinal Stromal Tumors Associated with Neurofibromatosis Type 1 that Were Not Detected by Endoscopy: A Case Report	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Case Reports in Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 167 ~ 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000529340	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋瑠子、大江知里、橋立英樹、大月寛郎、山田鉄也、宮崎龍彦、都築豊徳、長嶋洋治	4. 巻 40
2. 論文標題 Oncocytic and chromophobe renal tumor の鑑別診断	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 18 ~ 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢代麻友佳, 関敦子, 高木敏男, 鬼塚裕美, 増井憲太, 山本智子, 長嶋洋治	4. 巻 40
2. 論文標題 ロボット支援腎部分切除術を施行された腎類上皮性血管筋脂肪腫の3例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 65 ~ 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣裕子, 長嶋洋治	4. 巻 41
2. 論文標題 腎原性腺腫	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 病理と臨床 病理診断クイックリファレンス2023	6. 最初と最後の頁 138 ~ 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAGAHISA CHIKA, YOSHIDA KAZUHIKO, KONDO HANAE, NAKAYAMA TAKAYUKI, MIZOGUCHI SHINSUKE, MINODA RYO, FUKUDA HIRONORI, KOBARI YUKI, IIZUKA JUNPEI, NAGASHIMA YOJI, ISHIDA HIDEKI, TAKAGI TOSHIO	4. 巻 44
2. 論文標題 Advanced Renal Cell Carcinoma With Inferior Vena Cava Thrombus Treated With a Combination of Preoperative Lenvatinib and Pembrolizumab	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Anticancer Research	6. 最初と最後の頁 1317 ~ 1321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/anticancerres.16927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ono Akihiro, Nakamura Masaki, Takada Takuya, Miura Sakiko, Tsuru Ibuki, Izumi Taro, Kusakabe Masashi, Mitarai Sachiko, Nagashima Yoji, Kume Haruki, Morikawa Teppei, Shiga Yoshiyuki	4. 巻 7
2. 論文標題 Bilateral fumarate hydratase deficient renal cell carcinoma in a patient with hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer syndrome	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 IJU Case Reports	6. 最初と最後の頁 144 ~ 147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/iju5.12688	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大江知里、林博之、三上修治、都築豊徳、長嶋洋治
2. 発表標題 腎癌取り扱い規約第5版とWHO分類第5版の改訂ポイント、臓器系統別ワークショップ 11 最近の泌尿器・生殖器腫瘍の話題 ~改訂された癌取り扱い規約とWHO分類を中心に~
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鳥山茜、佐伯春美、泉浩、富田茂樹、辻村晃、長嶋洋治
2. 発表標題 FH欠損腎細胞癌の2例(第2報)
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井裕介、畑中佳奈子、長嶋洋治、柴田有花、矢部一郎、宮田遙、加瀬貴美、篠原敏也、太田聡
2. 発表標題 癌の詳細な検索より遺伝子的な検討に至り判明した遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌症候群随伴性腎細胞癌の一例
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本間志功、松沢春華、三宅美佐代、佐藤峻、廣岡信一、長嶋洋治、鷹橋浩幸
2. 発表標題 管状嚢胞状の構築を示した嫌色素性腎細胞癌好酸性亜型の一例
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福田洋典、雑賀寛、時田大輔、石山亮、池田敬至、石原弘喜、立花秀和、吉田一彦、小林博人、飯塚淳平、平井敏仁、山下万喜子、北野滋久、長嶋洋治、溝口幸宏、青木一教、近藤恒徳、高木敏男
2. 発表標題 腎細胞がんにおける腫瘍免疫微小環境のフローサイトメトリーによる解析
3. 学会等名 第52回腎癌研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小針悠希、吉田一彦、蓑田亮、福田洋典、飯塚淳平、長嶋洋治、高木敏男
2. 発表標題 粘液管状紡錘細胞癌における15例の臨床的検討、
3. 学会等名 第52回腎癌研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤澤俊介、原琢人、平田淳一郎、板東由加里、岡田桂輔、寺川智章、千葉公嗣、古川順也、重村克巳、中野雄造、藤澤正人、兵頭俊紀、長嶋洋治
2. 発表標題 腎芽腫治療後に対側腎に生じた転座型腎細胞癌に対してロボット支援下腎部分切除術を施行した1例
3. 学会等名 第250回日本泌尿器科学会関西地方会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長嶋洋治、鬼塚裕美、増井憲太
2. 発表標題 腎腫瘍の分子生物学と surrogate marker を用いた診断、
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会秋期大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢津田 旬二、元島 崇信、神波 大己、大倉 航平、大園 一隆、三上 芳喜、長嶋 洋治
2. 発表標題 腎Low-grade oncocytic tumor (LOT) の1例
3. 学会等名 第11回日本泌尿器病理研究会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤勇一郎、長安真由美、村嶋隆哉、川添智浩、向井尚一郎、賀本敏行、田中弘之、長嶋洋治、加藤生真
2. 発表標題 TFEB転座型腎細胞癌と鑑別が困難であった類上皮性血管筋脂肪腫の一例
3. 学会等名 第11回日本泌尿器病理研究会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀麻琴、渡邊孝太、橋詰典弘、村上大軌、瀬戸武仁、村瀬悠也、藤澤英文、松原英司、本間まゆみ、根本哲生、長嶋洋治
2. 発表標題 腎混合性上皮性間質腫瘍の一例
3. 学会等名 第459回日本医学放射線学会関東地方定期大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長嶋洋治、山本智子、高木敏男、吉田一彦、田邊一成
2. 発表標題 多発性嫌色素性腎細胞癌の2例
3. 学会等名 第110回日本病理学会総会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荻野有加、鬼塚裕美、増井憲太、山本智子、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 Low grade oncocytic tumor of the kidneyの2症例
3. 学会等名 第110回日本病理学会総会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢代真友佳、鬼塚裕美、山本智子、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 腎類上皮性血管筋脂肪腫の3例
3. 学会等名 Low grade oncocytic tumor of the kidneyの2症例
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲垣茉莉子、山本智子、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 hybrid oncocytic/ chromophobe tumor (HOCT) : 10症例の臨床病理学的検討
3. 学会等名 第110回日本病理学会総会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長嶋洋治
2. 発表標題 令和の腎腫瘍病理～遺伝子異常を含めてシンポジウム 形態診断と遺伝子情報
3. 学会等名 日本臨床検査医学会 関東甲信越支部 第76回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐川弘美、宇野絵梨、本野紀夫、西尾由紀子、岩下広道、山中正二、長嶋洋治、藤井誠志
2. 発表標題 胸水中に出現したFumarate hydratase-deficient renal cell carcinoma (フマル酸ヒドラーゼ欠損腎細胞癌) の2例
3. 学会等名 第62回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長嶋洋治
2. 発表標題 腎癌取扱い規約(第5版)の改訂点と腎腫瘍病理診断の考え方
3. 学会等名 第47回茨城病院病理医の会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長嶋洋治
2. 発表標題 病理診断特別講演「腎腫瘍の病理－腎細胞癌(RCC) 4組織型を主軸とした診断アルゴリズムと、新規・希少腎腫瘍の診断クルー－」
3. 学会等名 第67回日本病理学会秋期特別総会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大江知里、林博之、三上修治、都築豊徳、長嶋洋治
2. 発表標題 腎癌取扱い規約第5版とWHO分類第5版の改訂ポイント、臓器系統別ワークショップ11 最近の泌尿器・生殖器腫瘍の話題 ~改訂された癌取扱い規約とWHO分類を中心に~
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井裕介、畑中佳奈子、長嶋洋治、柴田有花、矢部一郎、宮田遙、加瀬貴美 6、篠原敏也、太田聡
2. 発表標題 腎癌の詳細な検索より遺伝子的な検討に至り判明した遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌症候群随伴性腎細胞癌の一例
3. 学会等名 第111回日本病理学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長嶋洋治、関敦子、井藤奈央子、吉澤佐恵子、種田積子、鬼塚裕美、増井憲太、山本智子、倉田厚、大橋瑠子
2. 発表標題 Papillary renal neoplasm with reverse polarity (PRNRP). 17 例の臨床病理学的検討
3. 学会等名 第112回日本病理学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渋谷菜桜、山本智子、渡邊俊、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 腎原発と考えられた neuroendocrine tumor (腎 NET) の1例
3. 学会等名 第112回日本病理学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 原愛海、山本智子、渡邊俊、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 Fumarate hydratase 欠損性腎細胞癌 (FhRCC) 3 例の臨床病理学的検討 (第二報)
3. 学会等名 第112回日本病理学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 橋本哲也, 白石彩, 村上佳織, 清水絢子, 富所貴美子, 野並裕司, 金室俊子, 山本智子, 長嶋洋治
2. 発表標題 術後, 多発リンパ節転移がみられたフマル酸 ヒドラーゼ欠損性腎細胞癌の1 例
3. 学会等名 第64回日本臨床細胞学会総会 (春期大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福田洋典, 長嶋洋治, 加藤生真, 古屋充子, 石原弘喜, 吉田一彦, 近藤恒徳, 高木敏男
2. 発表標題 Xp11.2転座型腎細胞癌(Xp11.2RCC)の臨床病理学的特徴
3. 学会等名 第53回腎癌研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石原弘喜, 池田啓至, 福田洋典, 吉田一彦, 小林博人, 飯塚淳平, 近藤恒徳, 長嶋洋治, 高木敏男
2. 発表標題 最近20年間の透析腎癌に対する治療アウトカムの検討
3. 学会等名 第53回腎癌研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永久知佳, 吉田一彦, 中山貴之, 溝口晋輔, 蓑田 亮, 福田洋典, 小針悠希, 飯塚淳平, 長嶋洋治, 高木敏男
2. 発表標題 レンパチニブ・ベンプロリズマブ併用療法によりロボット支援腎摘除術が可能となった右房に達する下大静脈腫瘍塞栓を伴う進行性腎細胞癌の一例
3. 学会等名 第88回日本泌尿器科学会東部総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高田拓弥、三浦咲子、香田弘知、増田芳雄、橋本浩次、中村真樹、長嶋洋治、森川鉄平
2. 発表標題 遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌症候群と診断し得たFH欠損腎細胞癌の1例
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 目佳那子、小島史好、松崎生笛、村田晋一、林博之、大橋瑠子、大江知里、長嶋洋治
2. 発表標題 VHL変異を有する淡明細胞乳頭状腫瘍の臨床病理学的特徴：VHL変異のない淡明細胞乳頭状腫瘍との比較
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤田千佳、兵頭俊紀、長嶋洋治、西岡 遵、兵頭洋二、藤澤正人、伊藤智雄
2. 発表標題 Fumarate hydratase (FH) 欠損性腎細胞癌と考えられた一例
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 大谷方子、相田真介、藪崎 亮、石川雄一、長嶋洋治
2. 発表標題 微小乳頭状構造を伴う粘液管状紡錘細胞癌様の腎細胞癌の一症例
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 関 敦子、蓑田 亮、渡邊 俊、高木敏男、長嶋洋治
2. 発表標題 末期腎不全患者に認めた腎原発肉腫の一例
3. 学会等名 第113回日本病理学会総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小島 貴, 菊地良直, 安井万里子, 沼倉里枝, 藤倉睦生, 望月 眞, 佐野竣亮, 南 秀坪, 向山淳児, 笠井亮子, 赤嶺 亮, 河野純一, 石井美樹子, 柳井広之, 長嶋洋治, 笹島ゆう子
2. 発表標題 胸椎転移を来したコハク酸脱水素酵素欠損性腎細胞癌の一例
3. 学会等名 第65回日本臨床細胞学会総会(春期大会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 亀山香織	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 176
3. 書名 病理診断に直結する切り出しのキモ	

1. 著者名 青笹 克之、加藤 光保、金井 弥栄、菅野 祐幸	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 884
3. 書名 解明病理学第4版 病気のメカニズムを解く	

1. 著者名 大江 知里、長嶋 洋治	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 292
3. 書名 腎癌 第2版(腫瘍病理鑑別診断アトラス)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://researchmap.jp/read0019986/ https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000010217995/ 東京女子医科大学 病理診断学分野 https://www.twmu.ac.jp/univ/medical/subject/detail.php?id=02030

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 生真 (Kato Ikuma) (80644939)	横浜市立大学・医学部・助教 (22701)	
研究分担者	近藤 恒徳 (Kondo Tsunenori) (50301544)	東京女子医科大学・医学部・教授 (32653)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------